

後期基本計画における指標設定の基本的な考え方

1. 趣旨

- ・総合計画に登載した政策・施策の効果を把握し、達成状況を適正に評価することを目的に、基本施策ごと、行政活動の成果を測る指標を設定するとともに、計画期間内における目標値を定めるもの。
- ・指標設定により、①市が目指す将来都市像を具体的に市民に示すことができるようになるとともに（市民への説明責任の側面）、②行政内部で指標を確認することで施策の進行管理、組織全体における経済性や効率性の状況の把握が可能となる（内部管理、内部統制の手段の側面）。

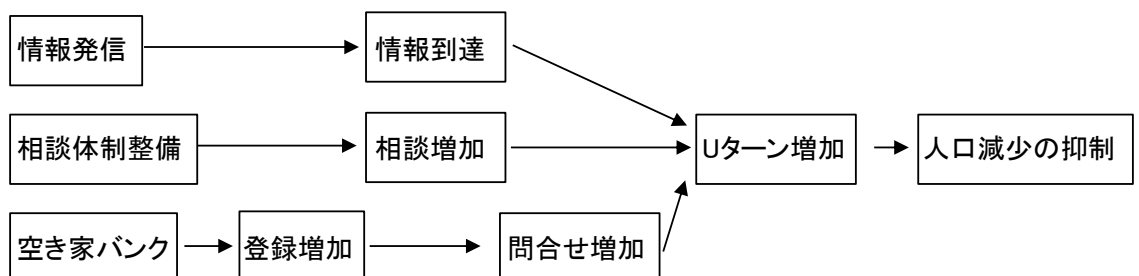
2. 指標の種類

- ・政策評価で一般的に用いられる指標として、次のようなものがある。

指標名	内容	指標例
投入指標 （インプット指標）	行政活動の投入を表す指標 （人・物・金・時間）	・資金 ・人員、人件費
活動指標 （アウトプット指標）	事業による行政サービスの提供量 や行政活動の量を表す指標	・事業実施回数 ・整備量（延長等）
成果指標 （アウトカム指標）	行政サービスの提供が市民生活に どのような効果や成果をもたら しているのかを表す指標	・行政サービス利用者数 ・相談・指導件数

- ・成果指標にはいくつかの段階があり、施策の目的としている成果を表す「最終成果指標」、目的達成の途中段階の成果を表す「中間成果指標」に分類される。
- ・最終成果に近づくとき様々な要因から影響を受けやすくなり、市の施策や事業だけではコントロールできなくなることもあるため、施策や事業ごとに最終成果と中間効果を適宜使い分ける必要がある。

【例】移住施策の場合



○「情報発信」に着目した場合、施策固有の成果は「情報到達」であり、これを指標とする。→最終成果は「人口減少の抑制」であるが、他施策等の影響を受けるため、妥当な指標設定とは言えない。

3. 指標・目標値設定の考え方について

(1) 指標設定の考え方

- ・ 行政の説明責任の観点から、市民からみて施策の目的や成果が分かりやすい成果指標（アウトカム指標）を設定する（原則）。
- ・ ただし、成果指標の基となる調査が数年おきに実施されるなど、継続的・定期的な数値の把握ができない等の事情がある場合は、活動指標（アウトプット指標）とする。
- ・ 「村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（平成27年度策定）における重要業績評価指標（KPI）を勘案する。
- ・ 指標は、市民がその意味を理解できる分かりやすいもので、かつ、既存の調査等から把握できるなど入手が容易なものとする。
- ・ 指標や目標値の数値化が困難な場合、指標は設定しないこととする（この場合、設定しない理由を明らかにする。）。
- ・ 指標設定数は、基本施策単位で、おおむね2つとする。

<参考（指標設定のフロー）>

ア 施策の対象の認識

例：市民全般、65歳以上の市民、小学生、子どもの保護者など

イ 施策の成果の想定（施策の対象をどんな状態にしたいのか）

施策の現状分析と課題整理を行ったうえで、施策の対象をどのような状態にしたいか、あるいはすべきか、施策が目指すべき具体的な姿や状態を明確にし、中間成果から最終成果までの複数の成果を想定する。

例：〇〇率を上げる、〇〇を減らすなど

ウ 指標の決定

イで想定したいくつかの成果の中から施策の指標を選択し、指標名を決める。

決定に際しては、最終成果に近く、かつ施策の固有の効果として把握可能であるものかどうか、指標の妥当性を確認する。

(2) 目標値設定の考え方

- ・ 過去からの傾向や他市の情報なども参考としながら、指標の目標値を設定する。
- ・ 目標値は高すぎたり低すぎたりすることなく、施策の手段である事業の努力によって達成可能な値とし、その上にプロジェクト展開等による状況の改善という積極的な意味を加えたものとする。
- ・ 過年度実績や将来予測、関連データ、既存計画を踏まえるなど、設定根拠を明確にする。